

北の技術情報誌
Hint!
Vol.5

■発行/国土交通省 北海道開発局 事業振興部 防災・技術センター 〒062-8511 札幌市豊平区月寒東2条8丁目3-1 TEL. 011 (851) 4111 (代表)

北の技術情報誌

Hint!

Hokkaido Information of Technology

第5号

2006.Nov

特集

**事後評価を軸に!
新技術活用システム
本格運用開始**

Try

生まれかわる大地
ML工法/チップ緑化(パークブローア)工法

Focus

すすめ!テクノロジー
NETIS登録技術10の「技」

Report

安心の備え/知恵の芽
●万々に備えて!災害対策用機械の操作訓練
●道路下の“空洞”を非破壊で発見し、
陥没事故を未然に防止!
●北海道の冬道を雪害から守ります!

国土交通省 北海道開発局 事業振興部

防災・技術センター

Hint!

Vol.5



Contents 目次

特集

事後評価を軸に！
新技術活用システム本格運用開始 02

Try

生まれかわる大地 07

- ML工法／小樽開発建設部 岩内道路事務所
- チップ緑化（パークプローア）工法／札幌開発建設部 岩見沢道路事務所

Focus

すすめ!テクノロジー 11

NETIS登録技術10の「技」

- ピンローラー式除塵機
- 免震ゴム支承 (THD)
- 渡版撤去・チェーン工法
- ゲートリモコン
- オーバースライダーゲート
- CCTVカメラ用雨量水標
- サリカブロック
- ジェット噴射式液状凍結防止剤散布装置「オートカマグJET」
- 環境浄化アスファルト舗装工
- 環境浄化舗装用ブロック

Report

安心の備え ●万一に備えて!災害対策用機械の操作訓練 15

知恵の芽 ●道路下の“空洞”を非破壊で発見し、陥没事故を未然に防止!
●北海道の冬道を雪害から守ります!

■表紙の解説 天体望遠鏡 (電波望遠鏡)

今まで、宇宙についてさまざまな発見がされてきました。今もなお知り得ない宇宙の新しい発見を目指す天体望遠鏡のように、北の技術もまた見ぬ一歩進んだ技術を目指し、豊かな未来を築くため新しい技術開発に取り組んでいきます。

事後評価を軸に！ 新技術活用システム本格運用開始

●●● 1年間の試行期間を経て ●●●

国土交通省では、平成13年度に「公共工事における新技術活用促進システム」を創設し、新技術の公共工事への活用を促進してきました。

平成17年度は、実績の少ない新技術の活用の促進等を図るため、現場での確実な試行を実施し事後評価を行う「評価試行方式」を導入することにより「公共工事等における技術活用システム」に再編・強化して、暫定的な運用を行ってきました。

この1年間の試行期間を経て、暫定運用時の課題や新技術活用の実情等を踏まえ、新技術の峻別による有用な新技術の活用促進と技術のスパイラルアップを目的として、これまでのシステム全体を「事後評価中心型」に改編し、平成18年8月1日より「公共工事等における新技術活用システム」を本格運用することとしました。

これにより、民間における新技術開発の促進や優れた新技術の活用による公共工事の品質確保、コスト縮減等が期待されます。



●●● 本格運用の5つのPoint! ●●●

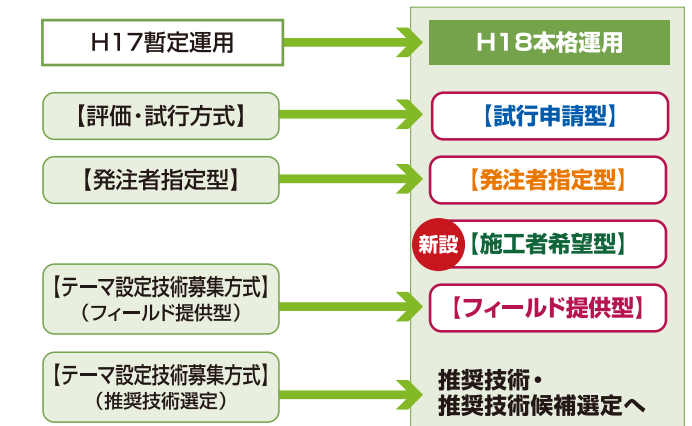
試行期間の暫定運用で明らかになった活用システムの運用上の課題は、以下の3つが挙げられました。

- 課題1 有用な新技術の選択が困難
- 課題2 技術難易度の高い工事や大規模工法等に関する新技術の活用方式が不明確
- 課題3 新技術の試行・評価から活用までの道筋が不明確

これらの問題点に対する解決策を活用システムの中に組み入れることにより、新技術の活用が円滑かつ効率的に運用できると考えました。本格運用のポイントは、主に以下の5つです。

Point 1 活用方式(間口)の拡大・体系化

事後評価をシステムを中心に据え、これまで行ってきた「発注者指定型」、「試行申請型」、「フィールド提供型」に、技術難易度の高い工事や大規模工法等も含めた新技術活用について施工者の提案を受け入れる「施工者希望型」を新たにシステムに加え、新技術の4つの活用方式を体系化しました。



■活用方式(間口)の拡大・体系化

■新技術活用促進の取り組みの流れ

運用開始(平成13年度) (北海道開発局は平成15年度から運用開始)

- 「公共事業における新技術活用促進システム」
- (1) 「新技術情報提供システム(NETIS)」による情報の収集及び提供
 - (2) 「新技術活用評価委員会」による適用性等評価の実施
 - (3) 有用な新技術の公共事業への活用

再編・強化(試行)(平成17年度)

- 「公共工事等における技術活用システム」(再編・強化)
- (1) 安全性・耐久性等を確認(事前評価)し、問題がないものは現場での試行を実施し、試行後は事後評価を行う「評価試行方式」の設定。
 - (2) 比較的大規模な技術を対象に現場を提供する「フィールド提供」と、将来性のある画期的な技術を対象に推奨技術として公表する「推奨技術選定」の設定。
 - (3) 産学官連携による「新技術活用評価委員会」の拡大・強化。

課題抽出

再編・強化後本格運用開始(平成18年度)

- 「公共工事等における新技術活用システム」(本格運用)
- (1) 事後評価の実施・徹底及びNETISの再構築
 - (2) 新技術活用の体系化 (大規模工法を試行・評価し、活用する仕組みも新設)
 - (3) 新技術の試行・評価から活用までの道筋の強化